

心電図で左側胸水貯留の推定が可能か？

◎久保木 花奈¹⁾、山本 誠一¹⁾、仲辻 達也¹⁾、石原 夕莉¹⁾、植本 美佐夫¹⁾、森安 節子¹⁾
社会医療法人 岡村一心堂病院¹⁾

【目的】左側胸水貯留例では、心電図の左側誘導で R 波高の減高がしばしば観察される。左側胸水貯留の有無が心電図で推定可能か否かを検討した。

【対象・方法】心電図、心エコー図検査を実施し、心エコー図で左側胸水貯留を認めた 43 例（男性：21 例，女性：22 例，平均年齢：85.0 歳）を対象とした。検討方法は同一症例で左側胸水貯留無しの心電図と左側胸水貯留有りの心電図を比較検討した。検討項目は心エコー図で左側胸水貯留の計測（左室後壁側の胸水貯留の距離），心電図から心拍数，QRS 電気軸，QRS 幅，各誘導の R 波高，S 波高，ST 偏位，T 波を分析した。また，V4～V6 誘導で，R 波減高率 [（左側胸水貯留無し R 波高－左側胸水貯留有り R 波高）÷左側胸水貯留無し R 波高×100] も算出した。肢誘導はキャブレラ誘導に並び替えて観察した。

【成績・考察】1. 左側胸水貯留の計測（左室後壁側の胸水貯留の距離）は 36.2 ± 13.2 mm であった。2. 心拍数は左側胸水貯留有りが無しに比し，有意な高値を示した（ $P < 0.003$ ）。3. R 波高について 左側胸水貯留有りの II，aVF，V4～

V6 誘導が無しに比し，有意な減高を示した（ $P < 0.02 \sim 0.0001$ ）。特に V4～V6 誘導で顕著であった。

4. V4～V6 誘導の R 波減高率の比較 R 波減高率は 42.1～50.4% で有意差は認められなかった。5. V5 誘導の R 波減高率の分析 R 波減高率が 20% 以上を示したのは 37 例であり全体の 86% であった。6. 左室後壁側の貯留と V4～V6 誘導の R 波減高率の相関について V5 誘導が最も良かったが，相関性は $r = 0.201$ （有意性 $p = 0.195$ ）であった。

【結語】左側胸水貯留を認めた 43 例を対象とし，左側胸水貯留無しの心電図と有りの心電図を比較することにより左側胸水貯留の有無が心電図で推定可能であった。特に V5 誘導の R 波減高率が 20% 以上を示した場合，左側胸水貯留の有りの感度は 86% であった。

（連絡先：Tel(086)942-9900（内線 9166）